

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190401059), 法人名 ((株)ライフ・クリエイト), 事業所名 (グループホーム喜望蓬 八軒), 所在地 (札幌市西区八軒10条東1丁目4-27), 自己評価作成日 (令和4年10月20日), 評価結果市町村受理日 (令和5年3月31日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年10月1日に開設し3周年を迎え4年目がスタートしました。法人理念である「心にも施設にも鍵をかけない」をモットーに、住み慣れた地域でできる事を行いながら、馴染みのある人達と一緒に穏やかに健やかに暮らすお手伝いをしています。開設してすぐに新型コロナウイルスが流行し、本来ならご家族様参加型行事や、外出行事等がほとんど行っていない状況です。同法人のグループホームと合同で「運動会」や「夏祭り」を八軒施設前にて行い、施設職員と利用者様だけの参加で楽しんでます。また「お花見」や「紅葉狩り」は車の中からの見学になりますが、季節を感じて頂きたく実施しています。お天気の良い気候の良い日は施設前にて「外ランチ」や「外おやつ」、「外レク」等を行い、感染対策として外部と接触せず楽しんで、こんな時だからこそできる事を考えて職員一丸となって、入居者様と一緒に楽しむ事を計画しています。早く新型コロナウイルスが終息し、本来の制限のない行事や日常が送れることを願いながら過ごしています。これから季節的に外レク等は難しくなるため、「バイキング」や「喫茶店」「リハビリ決戦」「懐かしの映画館」など室内で行えることを計画しています。お手伝いにも積極的に参加して頂き、できる事をいつまでも出来るように支援するように努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190401059-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年11月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅まで徒歩圏内に位置する閑静な住宅街に在り、近隣住民とは良好な関係を築いている。2ユニット18名の利用者が暮らす事業所は、その集合体の中で、家庭のようなごく普通の日常生活が送れるよう、もっと利用者の笑顔が引き出しせるよう、運営者と職員が心を寄せて取り組んでいる。今年度の目標に「どンドン元気に、コロナに負けずに・・・」を掲げ、コロナ禍での閉塞感に挑んでいる。戸外に出る機会作りが工夫され、散歩や草とり、庭先でのランチ会、夏祭りや花火大会、時には車窓からの紅葉見物やコンビニにも出かけており、そのために万全の感染症防止対策を講じている。屋内では、レク活動の充実や、家事仕事に利用者が参加し、元の職業を生かせる役割をお願いするなど、できる事を引き出し、利用者一人ひとりが主役の生活が営まれている。職員手作りの家庭の味は、笑顔と食欲を誘い、身体機能の維持にも繋がっている。家族への情報提供は毎月の通信などで詳しく行い、医療連携の下、利用者と家族が望む終末期支援にも真摯に取り組んでいる。開設して3年の事業所でありながら、良質のケアサービスが定評であり、感染症収束を見据え、さらなる地域密着の活動が期待されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like user satisfaction, staff support, and community engagement.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年頭の職員会議で年度の理念を掲げ、理念を共有し実践につなげている。理念は職員の常に見えるところに掲示している。	理念は、事業所内の要所の掲示やパンフレットに明記し、運営姿勢を広く周知している。各職員が意見を出し合い、グループワークで決定した年度目標は、職員全体の合言葉となり、日々チームケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり、積極的に地域との交流の機会を設けてはいないが、日常的なゴミ捨て・雪投げ・回覧板を届けるなどで顔を合わせた際の挨拶や交流はその都度持つように努めている。	地域交流は自粛状況であるが、日常の中で立ち話をしたり、利用者と一緒に近隣の庭を見せてもらうなど、普段着の関係が継続されている。住民からの入所相談では悩みを受けとめ、各種のサービス紹介をはじめ気軽に相談に乗っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり、現在運営推進会議は書面での会議としているが、窓越し面会時・オンライン面会時・電話等のご家族の相談にのったりアドバイスをするなど支援を継続して行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり、運営推進会議は現在書面での会議とさせていただいているが、活動報告や施設状況を説明し、アドバイス等頂き、サービス向上のために生かしていくように努めている。	現在、2か月毎の書面報告としている。定例事項のほか、感染症対策や面会対応、事故等の報告を議事録にまとめ、各推進委員と全家族に配布している。外部の視点を大切に考えており、報告に対する意見の吸い上げを工夫し、運営への反映につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時や各種の提出時には、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、相談したり意見を頂いている。	行政担当者とは、良好な関係であり、コロナ関連事項を中心に諸種情報を得て、不明点は相談、助言を受け対処している。介護認定、区分変更なども担当者と連携し、利用者の安定した生活環境を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のドアは常にオープンにしており、徘徊等は見守りにてケアを行っている。「心にも施設にも鍵をかけないケア」に職員一同真摯に取り組んでいる。	職員は、理念実践の対極にある「拘束や抑圧」をしない事を共通認識として理解し、身体拘束廃止委員会や勉強会で、虐待防止も併せて正しい内容を学んでいる。スピーチロックにつながる何気ない言葉は都度、職員に問い掛け注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時職員に説明・アドバイスをしながら、利用者支援に結び付ける活用ができるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、退所を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行い、状態の変化により契約解除に至る場合には家族等と相談し、対応方針も含めて納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には毎月施設広報誌「蓬」を送付し、また面会時や電話での問いかけやご意見等は何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	感染状況を踏まえた面会対応を検討している。毎月の通信で本人や事業所の近況を報せ、運営推進会議録の配布、ホームページも頻度良く更新して、コロナ禍での情報提供の充実を図っている。家族と関わる機会を捉え、意見や要望などの吸い上げに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談を行い、意見を聞くようにしている。また日頃からコミュニケーションを図る様に心掛けている。問いかけたり、聞きだしたりするよう努めている。	運営者及び管理者は、常に事業所全体を把握し、職員の意見や提案、悩みなどに関心を持ち対話を大切にしている。ストレス緩和に配慮し、法人内異動も含め個々人が働きやすく、スキルやモチベーションの向上への働きかけに注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来て利用者と過ごしたり、職員個々の業務や悩みを把握するよう努めている。能力に応じ昇格や昇給を行い、職員が向上心を持って働けるよう、環境を整える取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を設けているが、新型コロナウイルスの影響もあり現在は難しい状況となっている。職員会議や日常業務を通してケアのアドバイスや振り替えを行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者同士の交流を深め、勉強する機会を作っている。関係団体の会員になり、情報等を共有・交換し質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、必ず本人と会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係を密にし、隠れた要望を聞き出しプランに反映したり、ご家族に寄り添い家族としての悩みや困りごとに親身になって相談に応じるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームであるため、他の介護サービスを利用する事が難しいが、本人にとって必要な物は可能範囲内で支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側の垣根を取り払い、家族のように過ごし話し合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を行い、ご家族からの要望や本人の希望を聞き、ご家族と一緒に本人を支えていく支援に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があればなじみの場所に個別プランでスタッフと共に出かけたり、馴染みの人などにはいつでも面会できる環境を作っている。現在はコロナの影響で難しい状況となっている。	フリープランを活用した利用者希望の外出は中断しているが、恒例の八軒神社の初詣や車窓からの桜見物を支援している。家族にはオンライン面会を案内し、手紙や電話の取り次ぎをするなど、現状でできる関係継続の取り組みを心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、穏やかに過ごして頂けるよう座席の配置や、お手伝い、レクリエーションなどの時間を設けて、他者やスタッフとコミュニケーションをとることで、孤立せずに過ごすことができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡をとり、様子を尋ねたり居住場所を訪問したりしている。相談があれば関係機関と連携している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿った暮らしができるように希望等を聞き、スタッフ同士で本人の希望が叶うように検討している。	職員は、利用者との日常会話から、また、表情や仕草を通して快、不快、したいことや好きなものなど、きめ細かく感じ取るようにしている。基本情報に加え、家族情報をさらに得て、本人本位に検討している。終末期の過ごし方についても意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族からの情報にて、暮らし方を把握している。本人からもできるだけ情報が聞けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事は行っていただき、残存機能の向上に努めている。ユニット会議等でスタッフ同士の情報交換をしケアプランに反映させ実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で、スタッフ同士話し合い介護計画を作成している。身体的なことは訪問医と連携している。ケアプランはご家族に同意を得て実施している。	入居時に1か月の暫定介護計画を策定し、以後3か月ごとに見直している。計画作成の流れに沿い、職員其々が原案を提出することで、利用者の全体像の把握を容易にし、医療面の助言も得て全職員で協議している。本人・家族の意向を軸に、より良く生活するためのニーズを挙げ、現状に沿う計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの情報を記録で確認し、気づき等があれば情報を共有しケアの計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人らしい生活が行えるよう、新たなニーズ等にも対応できるよう柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、公園に散歩に行ったり、地域交流が持てるようにしているが、現在は新型コロナウイルスの影響で難しい状況になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医は毎週来ており、体調の変化があった時は随時訪問診療をして頂き、重度化・長期化にならない様に対応している。	利用者、家族の意向の下、納得を得た医療支援である。週1回内科の訪問診療、適宜の歯科往診、看護師の配置により、健康面の安心を支えている。家族が同行する外来受診の際は、口頭や文書で本人の状況情報を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護ノートに利用者さんの健康状態を記入し伝え、相談しながら医師の指示を仰ぐなど利用者さんの安心に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医の紹介で入院できる医療機関を確保しており、早期退院で日常生活を取り戻し、安心して施設生活を送れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づいてから、ご家族と話し合い、本人の過ごし方や希望を取り入れ、穏やかに最期を迎えられるように支援している。	終末期の在り方は、入居時の説明と本人・家族の意向を伺い、重度化状況では主治医も交えて話し合いを重ねている。医療連携と職員チーム、家族と相互に支援方針を共有し、本人が負担なく穏やかに過ごすことができるよう、心身に寄り添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、急変時の対応を身に付けるように学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。避難マニュアルに沿った対応ができるよう努めている。	年間計画を立て、火災や地震及び水害時を想定した避難訓練を行っている。利用者も参加し、主に夜間の災害に備え、迅速に対処できるよう訓練している。各種の備蓄品等を準備し、停電対策にプロパンガス式自家発電機を設置している。	非常災害時における避難場所について、運営推進会議等を活用し、家族への周知の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活のため、すべてのプライバシーの確保は難しいが、できるだけ本人の意思を尊重していけるよう努めている。	職員は人格の尊重はケアの基本であるとして、明るく丁寧に支援をしている。排泄や入浴等の介助では、特にプライバシーや自尊心を損ねないように対応している。個人情報の取り扱いも適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や要望を伝えやすい環境を作り、自分でできる事は自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム主体になってしまう事もあるが、個々の意志が尊重できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選び季節にあった服装や、お化粧品・おしゃれを楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての食事は利用者と調理・盛り付け・片づけ等を一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるように雰囲気作りも大切にしている。新型コロナウイルスの影響で同じテーブルでの食事は難しい状況となっている。	彩りや栄養バランスの良い家庭料理を提供し、利用者参加の食事作りは、食欲を増し美味しく食することにつながっている。おはぎ作りや食卓上での好み焼き、戸外でのランチ会、季節の行事では手作りの豪華松花堂弁当など、利用者皆の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調と1日の摂取量を把握している。個別に主治医により必要があれば経口栄養剤を処方しているが、これに限らず嗜好品や食べやすい物等いろいろ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛け見守りをし、食後は洗面所に行って頂く。出来ない方に関しては、毎食後口腔ケアを行い嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討使用している。	トイレ排泄を基本に、失敗を軽減できるようチェック表を参考に誘導している。布下着の着用者も多く、自分で汚れ物をサッと入れられるようボックスを用意している。排泄での一連の介助もさりげなく、羞恥心に配慮し、できないことの介助で個別の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しての薬剤調整や毎日の体操・水分補給等の重要性を理解し身体を動かす事の大切さを常に意識するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本としているが、発汗や失禁があった際は、状態に合わせた入浴を心掛けている。	利用者個々に週2回ほど入浴しており、状況や希望によりシャワー浴、同性介助や一番風呂に応じている。拒む場合も無理強ひせず、上手に誘っている。入浴時の心地よさと共に、清潔保持、安心・安全に細心の配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで午睡したり、心地よく眠りに付けるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を服用されている方は、睡眠状況を把握し日中の行動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員各自が確認し、変更時は連絡ノートにて報告し情報を共有している。利用者に変化があった際は直ぐに主治医に報告できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のその日の希望に沿い、散歩や外出支援をしている。また家族と協力し本人の思い出の場所への外出もできるよう支援体制を整えているが、新型コロナウイルスの影響で実施できていない。	自由な外出は難しいが、天気の良いときは散歩や草取り、庭先でのランチや茶話会など、外気に触れる日常を支援している。屋内での各種活動も工夫し、感染症対策を徹底して車窓からの桜や紅葉見物、コンビニへの買い物にも出掛けるなど、心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預らせていただいております。買い物の際は本人の希望する物をいつでも購入できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との手紙のやり取りをしている利用者がいる。本人から希望があれば電話のやり取りも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや家具の配置は、利用者と一緒に考え自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	共用空間は明るく、清潔保持、換気や温・湿度なども適切に管理されている。殆どの利用者は日中はリビングで過ごしており、その時々で状況で気分転換や危険防止策に席替えも柔軟に行っている。主役である利用者と季節飾りを制作し、モップかけなど掃除も一緒にして、一人ひとりが居場所感を持てるよう、安らぎのある環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は必要に応じ模様替えをしたり、椅子やテーブルの配置変更やソファを活用する等して、利用者同士が自由に交流できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との行事での写真を貼ったり、使い慣れた物を居室に置き、配置も本人のライフスタイルに応じて居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、本人の馴染みの調度類や大切なものが持参され、家族写真等が飾られている。収納スペースが備えてあり、本人の状況を見て、その都度物の整理や動線の確保を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて支援内容や環境整備に努めている。		